



炎の宣教者パウロ

(2017年度『牧羊者』夏期学校教案)

「御言を宣べ伝えなさい。」 (第2デモテ 4・2)

- ★ 第1課 迫害者サウロ (使徒行伝 7・54 ~ 8・3)
- ★ 第2課 回心したサウロ (使徒行伝 9・1~22)
- ★ 第3課 殉教者パウロ (第2デモテ 4・1~8)



二〇一七年度の夏期学校教案をお届けできま
すことを感謝いたします。
早速、教案について説明させていただきます。

一、おひめじ

今年の夏期教案は、二〇〇九年度の夏期教案を
リソース活用したものです。教会教育室のホーム
ページからダウンロードして、無料でお使いにな
れます。有料で送付を希望された教会には1部ず
つお送りします。必要な部数をコピーして用いて
ください。

夏期学校は、小学生が主なメンバーになると思
いますので、ワークは、1・2年生を対象にした
「下級」、3・4年生向けの「中級」、5・6年生
を想定した「上級」の3種類を用意しました。

しかし、子どもの信仰、学年、理解力の程度に
応じて、先生方が選んで用いてください。

二、カリキュラムについて

第一課は、「迫害者サウロ」。

ユダヤ教の若きリーダーであったサウロは、自
分は正しい事をしていて心から信じ、イエス様
とクリスチャンを迫害していました。その目の前
で起こったステパノ殉教事件。その一部始終はサ
ウロの心に深く刻みつけられました。これが伏線
となって、宣教者パウロの誕生に至る、神様のこ
計画がスタートします。

第二課は、「回心したサウロ」。

クリスチャン捕縛のため、鼻息荒くダマスコに
急ぐサウロに、復活のイエス様は天より、まばゆ
い光と共にお声をかけられました。サウロはもち
ろん、だれも予想もできない展開がサウロの身の

上に起こりました。サウロの心中、どれ程の葛藤、
苦悩が渦巻き、大変化が起こったか、想像もでき
ないほどですが、神様の力強い御手によって福音
宣教が、ここから大転換していくのです。

第三課は、「殉教者パウロ」。

大迫害者サウロから大宣教者に変えられたパ
ウロは、だれにも負けない大きな働きをし、教会
を指導する手紙をたくさん書きました。新約聖書
の手紙としてその多くが残されており、私たちが
指導してくれています。その宣教の生涯の中にお
いて、愛弟子テモテを指導したのが、テモテへの
手紙です。殉教者パウロの宣教スピリットは、テ
モテに受け継がれ、そして今、私たちへとつな
がっていることを心したいと思います。

三、執筆担当者

先述しましたが、今年の夏期教案は、二〇〇
九年度のものをもとに作成しました。当時の執筆
者の先生方が、快く原稿の使用を許可してくださ
いました。心より感謝いたします。

メッセージ例 長谷川宣恵師

下級ワーク 今田好一・雅子師

中級ワーク 山田和幸師

上級ワーク 田上篤志師

最後に、今夏の各地のバプトルキャンプ・夏期
学校の上に、主の祝福が豊かにありますことをお
祈りいたします。

教会教育室長 中島啓一



第一課 迫害者サウロ

聖書 使徒7・54〜8・3

中心聖句 これに立ち合った人たちは、自分の

上着を脱いで、サウロという若者の

足もとに置いた。使徒7・58

目標 ステパノの殉教は、サウロの回心の

ための主の備えであつたことを知る。

導入

今年の夏期学校は、イエス様に反抗していたサウロ（後のパウロ）がイエス様に出会い、イエス様を伝える大伝道者に変えられたことを学びます。サウロを通して、イエス様は、どんな人をも造り変えてくださり、他の人を生かせる者にしてくださる素晴らしい神様であることを知りましょう。

第一課は、クリスチャンをいじめ抜いていたサウロについて学びます。

サウロという人物

サウロは後に「パウロ先生」と呼ばれた有名な伝道者です。皆さんもよく知っている先生ですね。サウロはタルソという町で生まれ、ユダヤ教のエリート青年でした。神様を信じる厳しい家庭で育った、とても勉強熱心な若者で、今で言う「いつもトップの優等生」だったのです。旧約聖書の教え（律法）を守ることに厳しいパリサイ派に所属し、神様を信じ従うことには熱心でした。けれども、十字架で死んで3日目によりがえつてくだ

さったイエス様のことは信じるのができませんでした。イエス様を信じることは、神様を冒瀆（ぼうとく）（いがしろに）することだと考えていたのです。ですから、サウロは、神様のためだと心から信じて、クリスチャンを撲滅させるため迫害する（いじめる）ことに一生懸命になっていきました。

ステパノの殉教

世界で最初の教会に、「ステパノ」という素晴らしいクリスチャンがいました。イエス様を心から信じ、神様の霊に満たされた人でした。そして、人々からも尊敬される評判の良い人だったので、人々のお世話をするために選ばれる役員さんの第一号になりました。神様と人々に尽くすことのできる素晴らしい愛と信仰の持ち主だったのでした。ところが、こんなに立派な、誰からも見ても素晴らしいステパノが、「イエス様こそ救い主ですよ」と語ったという理由で石打ちの刑にあつたのです。つまり、「殉教」したのです。「殉教」とは、イエス様を信じた、という理由だけで殺される、ということなのです。

イエス様を信じる人々が急に増えたためか、ある日、ステパノは捕えられてしまいました。議会に連れて行かれて、話をさせられました。ステパノは、旧約聖書の教えから、イエス様こそ救い主であることを一生懸命語りました。自分たちの罪を指摘された人々は、激しく怒って、ステパノを石打ちの刑にしたのです。それは神様を汚した時に受ける刑（申命記13・6〜10）で、リンチ（私刑）だったのです。

ところが、そんなむごい、つらい刑を受けながらも、それは「見事な最期」だったのです。悲しくて下を向いていた最期ではなく、「天を見つめ」、助けてくださる神様を見上げ続けた最期でした。ステパノは、「神様の右に立つておられるイエス様」をしっかりと見つめていたのです。ステパノは、いつも、しっかりと「天を見つめ」、「イエス様を見つめる」生活をしていたからこそ、一番つらい、苦しい時にもそうすることが出来たのでしょう。またステパノの心と口には「祈り」がありました。しかも、「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせなさい」と、自分に石を投げつけて殺そうとする人のために祈りをし続けたのです。いじめる人を赦（ゆる）してあげてください、と祈りました。何という大きな愛でしょうか。

この祈りは、十字架上のイエス様と同じ祈りですね。ステパノは、イエス様を信じて、イエス様のように生きていたので、イエス様のような最期を遂げることが出来たのでしょう。ステパノは、祈りながら神様のみもとに帰って行つたのです。

殉教に立ち合ったサウロ

サウロは、その「ステパノ殉教事件」に大賛成で、じつと傍らで参加し、見届けていました。サウロは加害者でした。しかし、ステパノの死は無駄にはなりません。サウロの心をつかんでいたと思います。後日、奇跡が起こるからです。神様のなさることは不思議です。信じましょう。「もしステパノが祈らなかつたならば、サウロは回心しなかつたであろう」。（アウグスティヌス）

第二課 回心したサウロ

聖書 使徒9・1～22

中心聖句

あの人は、異邦人たち、王たち、またイスラエルの子らにも、わたしの名を伝える器として、わたしが選んだ者である。 使徒9・15

目標

サウロのダマスコ途上での劇的な回心と、与えられた使命を知る。

導入

ステパノの殉教を自分の目で見たサウロは、その後どうなったのでしょうか。「180度の転換」という言葉がありますが、サウロは大逆転の人生を送るようになるのです。「どんでん返し」の劇的な出来事について今日は学びましょう。

迫害し続けたサウロ

サウロは、ステパノ事件の後も、クリスチャンいじめをどんどんエスカレートさせていきました。そのいじめのひどいことといえば、イエス様を信じる人がいる所へはどこへでも飛んで行き、男女の区別なく捕まえては、牢屋ろうやに入れたのです。サウロは、迫害組織のリーダーだったのです。エルサレムの町から始まって、その迫害は外国の町にまで出かけるほどになっていきました(26・11)。迫害に燃えるサウロだったのですね。

イエス様に出会ったサウロ

びっくりすることが起こりました!「奇跡的」なことが起こったのです。いえ、それは本当に「奇跡」だったのです。

ある日、サウロがダマスコという町にいるクリスチャンたちを捕まえるために近づいたとき、なんと、突然バースと天からまばゆいほどの光が差し込んできて、サウロを照らしました。サウロは、地面に「バタン!!」と倒れてしまいました。そして、そのサウロの耳に、「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」という声が聞こえてきたのです。サウロは驚きながら、「主よ、あなたは、どなたですか」と聞き返しました。人間の声ではないとわかったのでしょうか。

すると、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」とイエス様が答えられました。サウロはびっくり仰天。一緒にいた誰だれもが驚いて物も言えない状態でした。サウロはイエス様を信じているクリスチャンを迫害していたつもりでしたが、本当は、イエス様ご自身を迫害していたことを知ったのです。この時サウロは、死んでよみがえられたイエス様と本当に出会ったのです。

サウロは起き上がりましたが、何も見る事が出来ない状態になっていました。イエス様が言われたとおり、一緒にいた人々にダマスコの町へ連れて行ってもらいました。3日間、食べることも飲むことも、もちろん見ることもせず、じっと静かに悔い改めと、お祈りの時を過ごしていたサウロでした。

サウロはこの「ダマスコ途上」でイエス様に出会って、迫害者からクリスト者へと変えられました。イエス様はやはり、よみがえって生きておられる神様ですね。すばらしいですね!

伝道者になったサウロ

ダマスコにアナニヤというクリスチャンの指導者がいましたが、イエス様から、「サウロを訪ねて、サウロの目が見えるようになるため祈りなさい」と告げられました。アナニヤは「なぜ?」と戸惑いました。サウロは大迫害者だったからです。そのアナニヤにイエス様が、「さあ、行きなさい。あの人は、異邦人たち、王たち、またイスラエルの子らにも、わたしの名を伝える器として、わたしが選んだ者である」と言われました。アナニヤは驚いたことでしょう。まさか、と考えたことでしょう。でも、アナニヤはイエス様の言葉にお従いし、言われるとおりにしました。

サウロのいる家に入って、「兄弟サウロよ、あなたが来る途中で現れた主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊に満たされるために、わたしをここにおつかわしになったのです」(9・17)と、アナニヤがサウロに手を置いてお祈りしました。すると、サウロは元どおり目が見えるようになったのです。サウロはどんなに嬉うれしかったことでしょう。クリスチャンをいじめていた自分に「兄弟サウロよ」と言ってもらい、目が見えるようにしていただいて……。

サウロは、イエス様に出会って、イエス様を伝える器と変えられました。今度は、イエス様を伝えるリーダーとなっていたのです。

小島伊助先生は、「サウロはタルソで生まれたが、大使徒パウロはダマスコで生まれた」と言われました。イエス様は今も人を造り変えられる神様なのです。

第三課 殉教者パウロ

聖書 第二テモテ4・1～8

中心聖句

御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。 第二テモテ4・2

目 標

主の証人・殉教者として、燃える宣教に生涯をかけたパウロの最後のメッセーじに私たちも生きよう。

導入

前回までに、クリスチャンを迫害することに命をかけていたサウロが、大転回し、イエス様を伝える人に変えられたことを学びました。今日は、サウロ（後にパウロ）が語った最後のメッセーじから、私たちもパウロにならって生きていくべきことを学びたいと思います。

伝道に燃えるパウロ

クリスチャンになったパウロは、「だれかが弱っているのに、わたしも弱らないでおれようか。だれかが罪を犯しているのに、わたしの心が燃えないでおれようか」（第二コリント11・29）とあるように、イエス様のことを知らずに苦しんでいる人々のために、一生懸命伝道して歩きました。

パウロは神の霊に満たされて、仲間と共にたくさんの人々をイエス様の救いに導き、たくさんの方のキリスト教会を生み出していったのです。でも、良いことばかりではありませんでした。伝道旅行中には、たくさんの方の迫害や邪魔をする人々に出会

いました。ルステラという町で伝道している時などは、石を投げつけられ、もう死ぬのでは…と思う迫害も受けました（使徒14・19）。

その他にも数え切れないほどの苦しみにあったことが聖書に記録されています（第二コリント11・23～28参照）。しかし、そんな中でもイエス様を伝え続けたパウロでした。それは、ダマスコ途上で会ってくださったイエス様こそ、本当の救い主だったからでした。だから、パウロの心はいつも燃えていたのです。

愛弟子テモテへの手紙

パウロはよく手紙を書かれる先生でした。私たちも手紙をもらうととても嬉しいですね。もらった教会や弟子たちは、パウロ先生からの手紙を大喜びで何回も何回も読み返したことでしよう。

パウロの手紙（書簡）は新約聖書の中に13通もあって、それは新約聖書の約半分にもなります。今日の聖書の箇所は、パウロがとても愛した弟子テモテへ送ったものです。テモテは、パウロ先生の伝道によってイエス様を信じ救われ、パウロ先生と一緒に伝道をする人となりました（第一テサロニケ3・2）。テモテはまだ若かったのですが、パウロ先生からたくさんの方のことを教えてもらっていたことでしょう。

パウロは、紀元68年ごろに殉教したと言われていますが、なんと、このテモテへの手紙はその年に、しかも、ローマの獄の中で書かれています。つまり、死を目の前にして書かれた「遺言状」だったのです。本当に大切な手紙ですね。

この手紙をもらったテモテは、「愛する子テモテへ」「わたしの子よ」とパウロ先生から書いていただき、涙を流しながら読んだと思います。テモテも伝道しながらたくさんの方の困ったことに出会っていましたので、この手紙を読んでもとても励まされたことでしょう。

テモテも、パウロ先生にならってイエス様を伝え、イエス様のために殉教したと言われています。

パウロの願い

パウロはこの手紙で、テモテへの最後の教えと願いを書きました。まず、「御言を宣べ伝えなさい」と語っています。「御言」とは、聖書全体、特に「救い主イエス様」「福音」のことです。おもしろい話や楽しい話をみんなは聞きたがりますが、一番大事な話は、「イエス様の救い」です。そのことを伝えなさい、伝道しなさいと言われました。

次に、いつ伝道するのか、を教えてくださいました。「時が良くても悪くても」つまり、「いつでも」、「都合が良くても悪くても」励んで語りましよう、と教えてくださいました。しかも、広い心で、途中で止めず、天国に行く日までイエス様を伝え続けるように勧めてくださったのでした。

パウロ先生たちが始めた世界宣教によって、日本にもイエス様が伝えられて来しました。感謝でしたね。私たちも福音を伝えていきましよう。

「教会の鐘の聞こえるところに住みたいという人がいる。しかし、わたしは地獄のすぐそばに救済店を開きたい」（伝道者C・Tスタッドの好んだ詩）。

はくがいしゃ

迫害者サウロ

しと

使徒7・54 ～ 8・3

1. きょうのお話^{はなし}に出てきたサウロは、どんな人^{ひと}だったでしょう。

ただ^{ただ}正しいものには○、まちがっているものには×をつけましょう。

① よくべんきょうする人^{ひと}だった。 ()

② イエスさまをしんじていた。 ()

③ クリスチャン（イエスさまをしんじている人^{ひと}）を

いじめていた。 ()



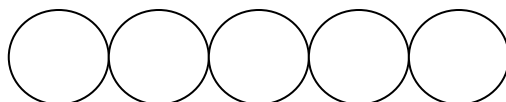
2. ステパノは、イエスさまを心^{こころ}からしんじている、すばらしい人でした。

ある日^ひステパノはつかまえられて、クリスチャンをいじめている人^{ひと}たちの

前^{まえ}につれていかれて、話^{はなし}をさせられました。そのとき、ステパノは、

なにを話^{はなし}したのでしょうか。 ○に字^じを入れてね。

イエスさまこそ



です。

3. サウロは、ステパノが殉^{じゅんきょう}教（イエスさまをしんじていることだけで
ころされる）するの^{だい}に大さんせいし、そばでじっと見ていました。

ステパノはさいご（しぬとき）に、どんないのりをしたでしょう。

「あ」「ー」「め」「ん」の字^じをけして出てきた文字^{もじ}を書いてみましょう。

★「しゅあよ、どうぞ、このめつみんを あかれーらにめ おわんせ
ないあでー くめださんい。」

*ステパノは、じぶんを殺^{ころ}そうとしている人^{ひと}のために、ゆるしてくださいと、かみさまに
いのりました。わたしたちも、いじわるをする人^{ひと}をゆるすいのりができたらいいね。

おいのり

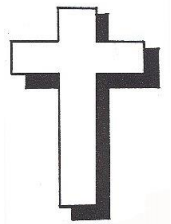
かみさま、わたしたちをいじめる人^{ひと}のために、「ゆるしてあげてください」といのる
ことができるように、イエスさまのあいをください。イエスさまのおなまえによっ
ておいのりします。アーメン。

かいしん

回心したサウロ

しと

使徒9・1 ～ 22



1. ステパノがしんだ^{あと}後、サウロは何^{なに}をしたでしょうか。
 正しいものには○、まちがっているものには×をつけましょう。

- ① かなしくてないた。 ()
 ② どんどん、クリスチャンをいじめた。 ()
 ③ クリスチャンをいじめるグループのリーダーになった。 ()

2. ダマスコの町^{まち}に近^{ちか}づいたサウロに、何^{なに}がおこったのでしょうか。
 しつもん^{こた}に答えてね。

- ① だれ^{こえ}の声を聞^きいたのでしょうか。 _____
 ② クリスチャンをいじめていたサウロは、ほんとうは、だれをいじめて
 いたのでしょうか。 _____
 ③ サウロは、どなた^{で あ}と出会ったのでしょうか。

④ あなたは、イエスさまに出会^{で あ}い（イエスさまをしんじ）しましたか。

3. イエスさまに出会^{で あ}う前^{まえ}のサウロと、出会^{で あ}ってから後^{あと}のサウロは、
 どのようにかえられましたか。

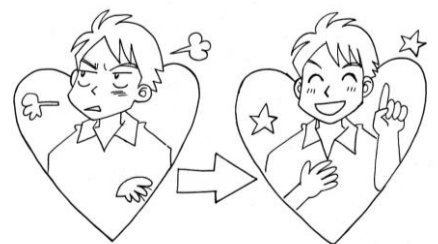
下^{した}のことばからえらんで○をうめてね。

サウロは、イエスさまを ○○○ る

人^{ひと}を、 ○○○ ていました。でも、

イエスさまと出会^{で あ}ってから後^{あと}のサウロは、イエスさまを

○○○ て、イエスさまを ○○○^{ひと} 人になりました。



・ しんじ

・ いじめ

・ つたえる

おいのり かみさま、イエスさまとほんとうに出会^{で あ}い、しんじることができるよう
 にしてください。イエスさまのおなまえによっておいのりします。アーメン。

じゅんきょうしゃ

殉教者パウロ

Ⅱ テモテ4・1～8

1. パウロ（^{まえ}前のサウロ）は、イエスさまを、つたえるためにいろんな^{まち}町にいきました。^{まち}町であった、よいこと、わるいことを下からえらんでばんごうを書きましょう。

（1）よいこと

（2）わるいこと

- ① たくさんの^{ひと}人がイエスさまをしんじた。
- ② きょうかいができて、イエスさまをつたえる^{ひと}人がうまれた。
- ③ 石を^{いし}なげつけられ^し死にかけた。
- ④ いじめられて、じゃまをされた。



2. パウロは、たくさんのくるしみにあいましたが、イエスさまをつたえることを、やめませんでした。なぜでしょうか。^{した}下のことはからえらんで○をうめてね。

パウロは、○○○○○ ^{であ}に出会いました。○○○○○
こそ、ほんとうの ○○○○ ○○○○ ^{だとしんじていたから。}

・イエスさま

・すくいぬし

3. きょうのみことばは、パウロがテモテ^かに書いたてがみです。パウロのねがい^{なん}は何でしょう。

- ① に^じ字を^い入れて、みことばをかんせいしましょう。

^{をのべ} ^{なさい。}

ときが ^{ても} ^{ても。}

- ② イエスさまのすくい^{はな}を話すことは、むずかしいかもしれません。でも、わたしたちにできることがあります。それはどんなことか、かんがえてみましょう。



おいのり

かみさま、わたしもだれかに、イエスさまのすくいをつたえることができるようにしてください。イエスさまのおなまえによっておいのりします。アーメン。

2017年度 夏期下級 解説（今田）

第一課「迫害者サウロ」

問1 ①（○） ②（×） ③（○）

サウロは、ユダヤ教のエリート青年で、とても勉強熱心でした。しかし、イエス様を信じることは神様を冒瀆することであり、クリスチャンを迫害することは、神様の喜ばれることだと信じていました。

問2 「すくいぬし」 ステパノが、どのような人物であったかを考えます。

問3 「しゅよ、どうぞ、このつみをかれらに おわせないでください」。
ステパノの殉教に賛成し、傍らで参加し、見届けていたサウロに、ステパノの祈りがどのような影響を与えたかを考えます。

第二課「回心したサウロ」

問1 ①（×） ②（○） ③（○）

第一課に引続き、大迫害者となっていたサウロの姿を確認します。

問2 ①イエスさま ②イエスさま ③イエスさま

サウロの劇的な回心を追っていきます。

④わからない、と答えるお友だちもいるでしょう。1、2年生なので、それぞれに応じた導きをしてください。

問3 「しんじ」 「いじめ」 「しんじ」 「つたえる」

サウロを迫害者からキリスト者へと変えられたイエス様は、イエス様と本当に出会った人を今も造り変えてくださいます。

第三課「殉教者パウロ」

問1 （1）よいこと ①、② （2）わるいこと ③、④

パウロは、イエス様のことを知らずに苦しんでいる人々のため、伝道に燃える者となりました。迫害者サウロが、迫害される側になったのです。

問2 ① 「イエスさま」 「イエスさま」 「すくいぬし」
どんな時、状況でも、伝道に燃えていたパウロの心を知ります。

問3 ① 「みことば」 「つたえ」 「よく」 「わるく」

何を伝えるのか、聖書全体から、「イエス様の救い」。

伝える時は、「いつでも」、「都合が良くても思えても悪くても思えても」。

② イエス様の喜ばれることは、何であるかを考えてみましょう。

例として 教会学校にお友達を誘ったり、連れて来たりする。みことばカードを渡したり、らみい等の神様の事を書いている読み物を渡す、など。

^{はくがいしゃ}
迫害者サウロ

^{しと}使徒7・54 ~ 8・3

1. ^{ことば}み言葉を書いて^{おぼ}覚えましょう。

^{しと}使徒7・58

2. ステパノは、どんな人だったのでしょうか。

①ステパノには、何が見えていたのでしょうか。(56節) ^{せつ}



②ステパノは、死ぬ^し時に誰^{だれ}のために祈^{いの}ったのでしょうか。(59~60節) ^{せつ}

3. ステパノを見ていたサウロの心の中には、どんな思いがあったのでしょうか。

あいつは^{まちが}間違っている

うらやましい

かわいそう

どうしてそんな^{いの}祈りをするのか?

にくらしい

4. あなたのまわりに、イエス様^{さま}を信^{しん}じて幸^{しあわ}せそうな人がいたら、あなたはどうするのでしょうか。

うらやましいと思う

いじわるをする

^{もくひょう}
目標にする

みならう

友だちになる



^{いの}お祈り ^{かみさま}神様、イエス様^{さま}は弱^{つみびと}い罪人のわたしたちのためにも、祈^{いの}ってくれました。わたしもイエス様に^{さま}従^{したが}えるように助^{たす}け導^{みちび}いてください。イエス様のお名前^{いの}によってお祈りします。アーメン。

かいしん

回心したサウロ

しと 使徒9・1～22

1. み^{ことば}言葉^{おほ}を書いて覚えましょう。

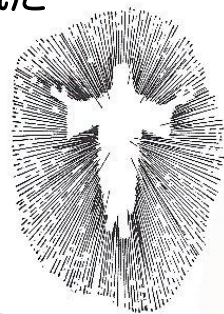
しと 使徒9・15

2. サウロに何がおこったのでしょうか。(3～6^{せつ}節)

(1) ダマスコの近くにきたとき、どんなことがあったのですか。
あてはまるものに○をしよう。

- ①馬^{たお}が倒れた ②山から石^おが落ちてきた ③地震^{じしん}があった
④天から光^{ひかり}があった ⑤ラッパ^{らっぱ}がなった ⑥地^ちに倒れた^{たお}
⑦ごうとう^{ごうとう}が出てきた ⑧呼びかける声^{こゑ}を聞いた

(2) サウロはだれに会ったのでしょうか。



3. サウロはどのように^か変わったのでしょうか。

(1) サウロはどんなお祈り^{いの}をしていたのでしょうか。(11^{せつ}節)

わたしは少しも悪くありません

大祭司^{だいさいし}がみんな悪いのです

イエス様^{さま}ごめんなさい

知らなかったから仕方^{しかた}がないんです

(2) 神様^{かみさま}は、これからのサウロを、どうする計画^{けいかく}だったのでしょうか。

おうさま 王様^{おうさま}にする

でんどうしゃ 伝道者^{でんどうしゃ}にする

かねもち お金持ち^{かねもち}にする



4. 神様^{かみさま}は、あなたに、どんな計画^{けいかく}をしていてくれるのでしょうか。

いの お祈り

神様^{かみさま}、わたしを^{えら}選んで、救^{すく}ってくださってありがとうございます。これからずっと、イエス様の^{さま}愛^{あい}におこたえしていくことができるように、導^{みちび}いてください。イエス様のお名前^{いの}によってお祈りします。アーメン。

じゅんきょうしゃ

殉教者パウロ

Ⅱ テモテ4・1～8

1. み言葉を書いて覚えましょう。

Ⅱ テモテ4・2

2. パウロは、どこにいたのでしょうか。

3. パウロが弟子のテモテに命令したことは、何だったのでしょうか。(2節)

①何を

おうさま
王様になる

ことば つた
み言葉を伝える

べんきょう
しっかり勉強する

②いつ

ときどき

いつも

む
気が向いたときに

4. あなたは、これから何をしていけばよいのでしょうか。

けっしん
決心したことに○をつけましょう。

☐ これからも続いて教会に行く。

☐ 教会にお友だちをさそう。

☐ 神様のために働けるよう準備を始める。

☐ そのほか ()

☐ せいしょ
聖書を読む。

☐ まいにち いの
毎日お祈りする。



いの お祈り

かみさま
神様、わたしはパウロ先生のように、どんな時でもイエス様のことを、伝える人になりたいです。わたしが友だちにイエス様のことを伝えることができるように、助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

第一課「迫害者サウロ」

問1 中心聖句を書き入れます。

問2

- ①「天におられるイエス様」が見えていました。ちなみに、イエス様は本来、神の右に座しておられますが（ヘブル1・3）、この時のステパノには立っておられるのが見えたのです。「殉教していこうとするステパノの姿に、イエス様は御座から立ち上がられたのだ」という霊想もあります。
- ②「自分を殺そうとしている人々のため」にとりなしの祈りをしました。このとりなしは、十字架上のイエス様のとりなしにそっくりです。ルカ23・34参照。

問3 サウロの心の中は、複雑であったかもしれないと想像できます。それぞれの子どもの目線で、どれを選んでも正解だと言えます。その子が、どうしてそれを選んだのかを聞いて話し合うと良いでしょう。

問4 子どもの周りには、ステパノのように素晴らしい信仰の証の見本は見つからないかもしれません。子どもでなくても、大人でも構いません。どうしても子どもが想像できなければ、ステパノ自身についてどう思うかを聞いてみましょう。

第二課「回心したサウロ」

問1 中心聖句を書き入れます。

問2

- (1) 「④⑥⑧」。聖書に従ってきちんと確認してあげましょう。
- (2) 「イエス様」。聖書に従ってきちんと確認してあげましょう。

問3

- (1) 「イエス様ごめんなさい」。悔い改めなしに救いはありません。サウロの救いにもハッキリとした認罪があったと考えられます。ただ、3日の間に、サウロの心が段々と変わっていったと想像するなら、初めの頃なら、他の3つの思いも少しはあったかもしれません。
- (2) 「伝道者にする」。15節参照。

問4 神様は、子どもたち一人一人に救いの計画や生涯の計画を持っておられることを自覚させてあげましょう。人それぞれに神様の計画は違うものです。

第三課「殉教者パウロ」

問1 中心聖句を書き入れます。

問2 「獄中、牢屋ろうやの中」。教案のメッセージ例からすれば、当然メッセージの中で触れられていると思います。ただ、もしそうでない場合は、テモテの手紙の解説、パウロとテモテの関係などを分級の導入で少しお話してあげて、触れておいてあげると良いでしょう。

問3 ①「み言葉を伝える」。勘違いした子がいたら、聖書のみ言葉で確認してあげましょう。

- ②「いつも」。時が良くても悪くてもという言葉の意味が分かりにくい子どもがあるかも知れません。「いつも」と説明するのは面白くないので、「どんな時も」ぐらいに説明しておく方が良いのではないのでしょうか。

問4 夏期学校で何らかの決断をして欲しいのが、教会側の思いです。ただ、この中の答えには当てはまらない子、そのほかの答えも思いつかない子がいるのは当然のことです。その子の気持ちを上手く引き出してあげられることが、これからの教会学校・分級との関わりに生かされると思います。祈りと配慮をもって、最も備えるべき問題です。

2017 年度 夏期上級 第一課「迫害者サウロ」 名前

★聖 書 使徒 7 章 5 4 節～ 8 章 3 節

★中心聖句 使徒 7 章 5 8 節

1、中心聖句を読んでみましょう。ここにサウロという名前が出てきます。このサウロという人は、どんな人でしたか。正しいほうに○をつけてください。

- ①サウロは、神様を〔 信じていた ・ 信じていなかった 〕。
 - ②サウロは、聖書を〔 知らなかった ・ よく学んでいた 〕。
 - ③サウロは、イエス様を〔 信じていた ・ 信じていなかった 〕。
 - ④サウロは、教会に対して、どんなことをしましたか。
-

2、イエス様を信じない人々によって、ステパノは殺されました。

- ①このとき、ステパノは何を見ましたか。
-

- ②ステパノは、人々から石を投げつけられている間、祈り続けました。それはどんな祈りでしたか。
-

- ③ステパノの祈りは、十字架につけられたイエス様の言葉と、とてもよく似ていました。聖書（ルカ 23・34、46）を調べてみましょう。
-

- ④ステパノが殺されたとき、サウロはどうしていましたか。

〔 そのことをまったく知らなかった ・ 賛成していた 〕

【祈り】天の父なる神様。石を投げつけられ殺されたステパノは、十字架にかけられたイエス様のように祈り続けました。そのステパノの姿を、しっかりと覚えてさしてください。主の御名によってお祈りします。アーメン。

2017 年度 夏期上級 第二課「回心したサウロ」 名前

★聖 書 使徒 9 章 1 ～ 2 2 節

★中心聖句 使徒 9 章 1 5 節

- 1、使徒 9 章 1 ～ 2 2 節を五つの場面に分けて、そこでどんなことが行われ、どんなことが起っていたか考えましょう。それぞれの場面を読んで、それにふさわしい内容を、右から選んで線で結んでください。

第1場面(9・1～2)・	・アナニヤと出会い、洗礼を受けるサウロ
第2場面(9・3～9)・	・サウロのことで主から命令を受けるアナニヤ
第3場面(9・10～16)・	・迫害に燃えるサウロ
第4場面(9・17～19 前半)・	・伝道に燃えるサウロ
第5場面(9・19 後半～22)・	・イエス様に出会い、召されるサウロ

- 2、迫害を続けていたサウロに、なぜイエス様は出会われたのでしょうか。

※ヒント…中心聖句 使徒 9 ・ 1 5 参照

-
- 3、教会を迫害し続けていたサウロは、まさに「キリストの敵」でした。そのサウロを、イエス様はお選びになり、「キリストの器」に変えられました。これは、サウロの努力によるものではなく、神様の力によるものです。このような神様の力を、あなたはごどう思いますか。下の中から、自分の思いに近いものがあれば選んで、その理由を話し合ってみましょう。

- ①すごいなあ、と思った。
- ②神様の選んでふしぎだなあ、と思った。
- ③なんとなく、希望がわいてきた。
- ④わたしも、イエス様の声を聞きたい、イエス様にお出会いしたい。
- ⑤そのほか。

【祈り】 天の父なる神様。教会を迫害していたサウロは、イエス様と出会い、伝道者パウロとなりました。わたしもイエス様とお会いしたいです。どうか、イエス様の声を聞かせてください。サウロを生まれ変らせた、あなたの恵みによって、この私も生まれ変らせてください。主の御名によってお祈りします。アーメン。

2017 年度 夏期上級 第三課「殉教者パウロ」 名前

★聖 書 II テモテ 4 章 1 ～ 8 節

★中心聖句 II テモテ 4 章 2 節

1、II テモテ 4 章 2 節を書いてください。

これは、パウロが手紙に書いた言葉です。この手紙は、獄の中で書かれました。
パウロはなぜ、獄に入れられたのでしょうか。

2、II テモテ 4 章 2 節は、私たちにも語りかけられています。その一つ一つの言葉の意味を考えましょう。

①「御言を宣べ伝えなさい」とは、何をするのでしょうか。

②「時が良くても悪くても」とは、どういう意味ですか。

③み言葉を伝えるということは、イエス様を知らない人に、イエス様を紹介することです。あなただったら、イエス様のことを、どんなふうに紹介してあげますか。

【祈り】 天の父なる神様。あなたは、み言葉を伝える使命を、イエス様を信じる一人一人に与えてくださっています。わたしも、み言葉を伝え、そしてイエス様を伝えていけるようになりたいです。どうか、その力を与えてください。主の御名によってお祈りします。アーメン。

2017年度 夏期上級 第一課 解説(田上)

教案の目標は「ステパノの殉教は、サウロの回心のための主の備えであったことを知る」となっています。そのために、①「回心前のサウロ」がどのような人物であったのかと、②主が備えられたと考えられる「ステパノの殉教」について、の二つを丁寧に調べる必要があります。「ステパノの殉教は、サウロの回心のための主の備え」であったということ自体を強調するよりも、聖書テキストが伝えている事実を、子どもたちの記憶に残してあげることで、目標が達成されると言えます。

ワークは、手がかり程度のものです。解き進めながら、あるいは答え合わせをする時に、内容を豊かにしてくださいと思います。そのために、メッセージ例が理解すべきことをきちんと説いているので、これをよく読んでおくべきです。また聖書辞典や注解書で、「サウロ (パウロ)」「ステパノ」の記述に当たっておくべきでしょう。また「迫害」「殉教」という言葉についても、子どもたちに伝わる言葉に変換して説明できるように備えておく必要があると思います。初代教会の受けた迫害を教会史から学んでおくことも有益です。

教案の目標と聖書テキストの性格上、登場人物を、生徒に当てはめるようなこと（サウロさんのようなことをしている人はいませんか…といったようなこと）はしないほうが良いでしょう。また、ステパノを安直に信仰者の模範として示すこと（たとえば、ステパノさんのようにイエスさまを信じましょう…といったようなこと）も控えるべきでしょう。そういうことを入れてしまうと、聖書テキストそのものの理解が薄まってしまうからです。第一課においては、いわゆる「適用」ということを急がないで、聖書の出来事が子どもたちの心に刻まれることを大切にすると良いでしょう。

子どもたちからの質問の可能性として「眠りについた」(60)という言葉、^{よみがえ}甦りの命との関係で説明できるように準備をしておくとい良いでしょう。個人伝道のきっかけにすることもできるかもしれません。

教案目標とは、まったく別のことですが、「人々は大声で叫びながら、耳をおおい」(7:57)は、強い印象を与える言葉です。人間の罪がどういうものであるかが表わされているとも言えます。分級とは別に、個人伝道でとりあげることでできるテキストかもしれません。

※設問の答え

1 ①信じていた ②よく学んでいた ③信じていなかった ④使徒8・3参照

2 ①使徒7・55～56参照 ②使徒7・59～60参照 ③ルカ23・34、46参照 ④賛成していた

2017年度 夏期上級 第二課 解説(田上)

第二課の目標も、第一課と同じように、聖書の伝えている出来事を知ることが中心で、いわゆる適用ではありません。聖書テキストは、サウロの心の動きや心理状態といったことには重点をおかず、この劇的な回心が、神の一方的な賜物であったことを強調しています。ですから、聖書テキストが伝えている物語(出来事のストーリー)の流れを子どもたちに追わせ、何が起ったのか、その結果サウロがどのように変えられていったのかを記憶に留めさせてあげることを先ず大切にしましょう。

設問1では、最初に、第1場面を誰かに朗読させ(あるいは教師が朗読し)、それから、ふさわしい内容を子どもたちに答えさせます。次に第2場面・・・というように進めて下さい。第2場面では、サウルのセリフ、主イエスのセリフ、会話以外の文章を読むナレーターと、分担させて読んでみるのも、場面を理解する上で効果的ではないかと思います。

中心聖句を最初に書かせて暗唱させるという方法は、今回の聖句のような場合(第1課も同じ)、あまり意味があるとは思われません。暗唱聖句としてふさわしいものか…という気もします(教案が「暗唱聖句」ではなく「中心聖句」としているのも、そのためでしょう)。ですから、「最初に中心聖句を覚えましょう」というお決まりのパターンをとらずに、設問2で中心聖句をとりあげ、神によるサウロの選びと、サウロに与えられた使命を確認するようにしています。

設問3は、やや教案の目標外のことを扱っています。子どもたちに①～⑤の中から選ばせ、例えば①を選んだ子どもには、「なにが、すごいと思ったの?」とか「どうして、すごいと思ったの?」という具合に質問をしてあげること、その子どもがテキストをどのように受け止めているのかを知る手がかりが得られるかもしれません。また、個人伝道のきっかけとなる対話が生まれる可能性もあるでしょう。そのためには、質問に対する子どもの答えを、一つ一つの言葉(単語)のレベルで、丁寧に耳を傾けることが大切です。

※設問の答え

1、第1場面「迫害に燃えるサウロ」 第2場面「イエス様に会い、召されるサウロ」

第3場面「サウロのことで主から命令を受けるアナニヤ」 第4場面「アナニヤと会い、洗礼を受けるサウロ」 第5場面「伝道に燃えるパウロ」

2、サウロを神の器として用いるため

神を知らない外国人や王、神を知っているがイエスを受け入れていないイスラエルの民に、イエス・キリストを伝えさせるため。

3、――

2017年度 夏期上級 第三課 解説（田上）

教案の目標が「パウロの最後のメッセージに私たちも生きよう」となっていますから、ここでは応答を呼び起こすことに集中したワークになっています。Ⅱテモテ4・2は暗唱に適した聖句といえます。前半部の「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても」の暗唱に努めます。その上で、この聖句を自分のこととして受けとめることを目指したいと思います。以下は、設問の解答例として参考にしてください。

設問1の「パウロはなぜ獄に入れられたのでしょうか？」の問いは、かつて教会に対する激しい迫害者であったパウロが、今は逆に、激しい迫害を受ける伝道者になっているという事実を確認するためのものです。伝道者パウロがどのような人であったのかは、メッセージ例にも適切に触れられていますので、そのことを確認しておくことがよいでしょう。

設問2は、通り一遍の答えではなくて、子どもたちの「生活の場」の中から出てくる言葉を引き出してあげたいものです。そのために、①「み言葉を宣べ伝える」ということも、広く理解して、「子ども会に、友だちを誘ってくる」とか「教会の伝道集会のチラシを配る」といったようなことまで含めて考えてよいと思います。

②の「時が良くても悪くても」は、実際には「悪くても」の方が問題になるわけですから、「時が悪い」とは、具体的にはどういう場合が考えられるか、ということと話合ってみるとよいでしょう。子どもなりの「時の悪さ」があると思います。

③は、この問いに答えることで、キリストに対する信仰を言い表わすこと、あるいは証に結びつきますので、このワークでは最も時間をかけて取り組まれるとよいのではないかと思います。子どもたちが答えにくそうであれば「イエス様は、私に〇〇をしてくださった方です」という具合に、例文を示してあげるとよいでしょう。まだ信仰を言い表わしていない子どもや、教会に来て間もない子どもには答えにくい、あるいは答えられないかもしれませんが、信仰をもっている子どもたちの答えを聞かせてあげることが一つの伝道なるでしょう。ですから、この時は、お互いの答えを、しっかりと聞きあうようにしたいものです。もし、信仰を言いあらわしていない子どもや、教会に来て間もない子どもが答えることが出来たときは、「そのとおり！」という共感を込めて、子どもの言葉を大切に受けとめてあげることです。子どもの答えは単純な、短い言葉で表わされることが多いでしょうから、例えば「イエス様は私を天国に行けるようにしてくださる方です」といった答えに対しては、「〇〇さんは、天国に行けることをどう思う？ 天国に行けるってうれしいよね！」という具合に、短くても対話をもって受けとめるようにしてあげるとよいでしょう。